

南砺市SDGs未来都市 市民会議 全体概要資料

令和5年2月6日

南砺市SDGs未来都市 市民会議

会議の概要

協議対象の計画等

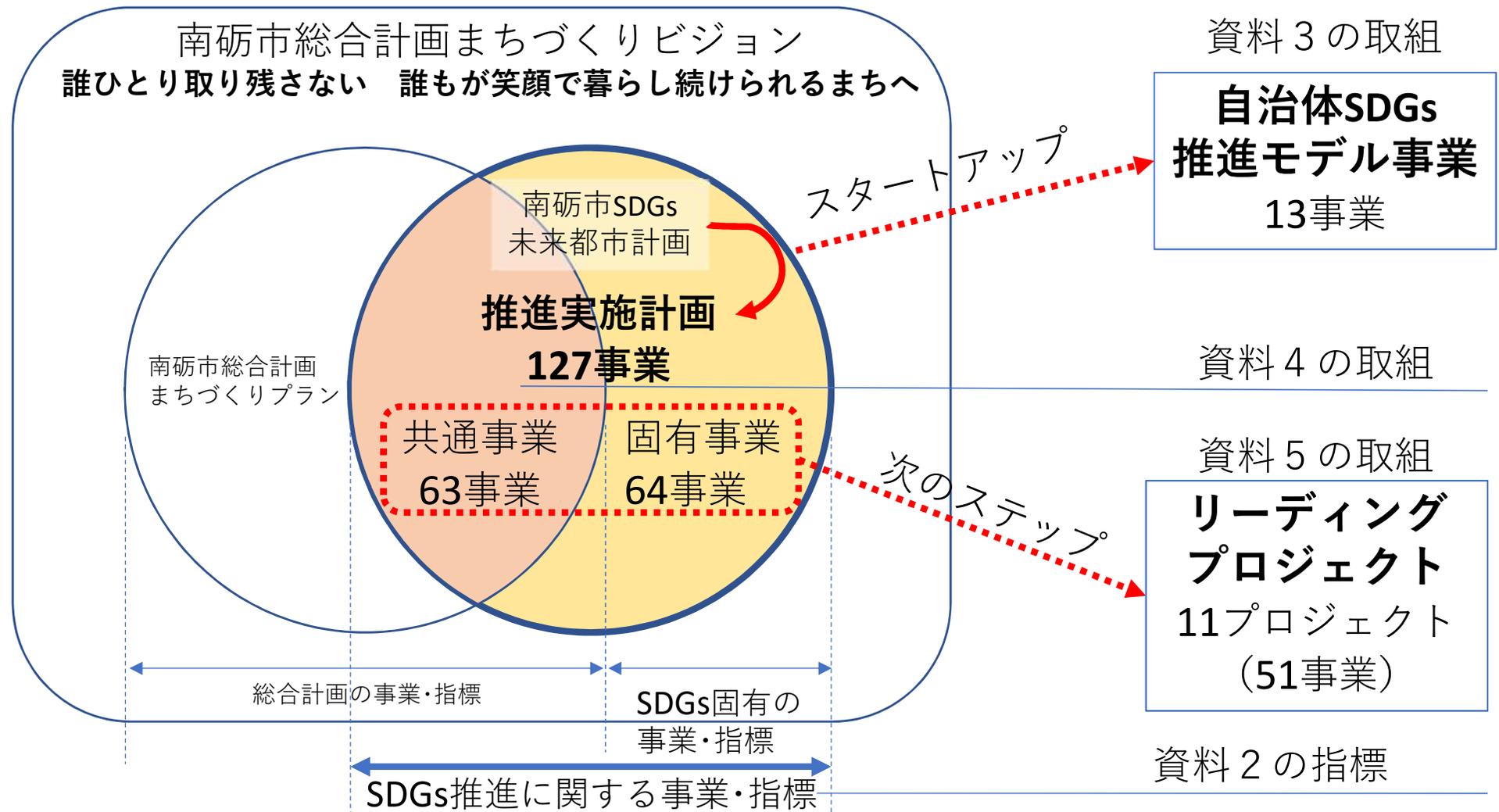
- ①南砺市SDGs未来都市計画（令和元年7月策定）
- ②自治体SDGs推進モデル事業（令和元年度実施）
- ③南砺市SDGs未来都市推進実施計画（令和2年6月策定）

協議の内容

- ①～③に関する現時点での状況
- SDGsの普及啓発と今後の取り組みに関すること

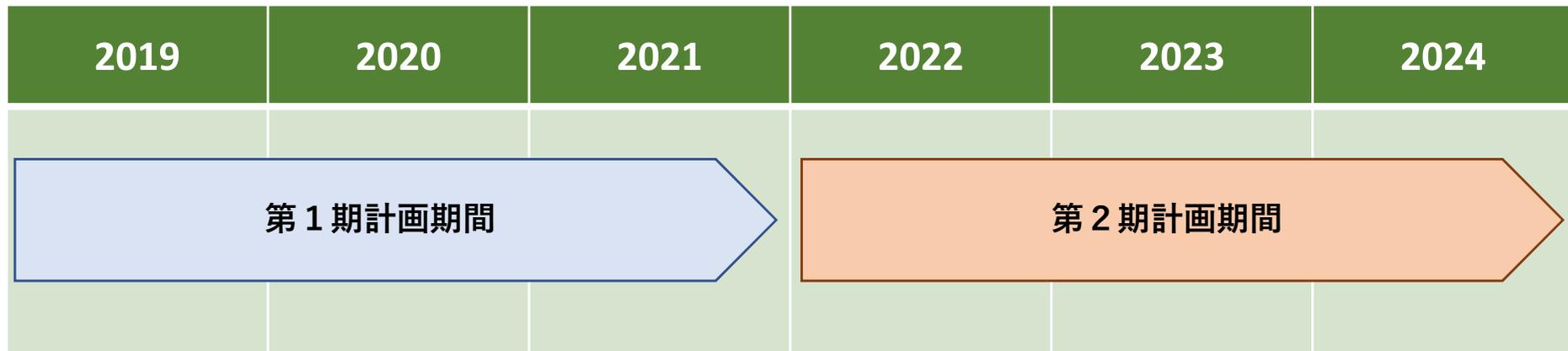
取組（施策や事業）の位置づけ

南砺市総合計画と南砺市SDGs未来都市計画の関係の整理



南砺市SDGs未来都市計画

- 2019年度、2019年度～2021年度の3年間を計画期間とした「南砺市SDGs未来都市計画」を策定
- 2021年度に計画期間が終了
- 2022年3月に第2期計画（2022～2024年度）を策定



✓ 第1期計画の2021年度終了時について進捗評価を実施

南砺市SDGs未来都市推進実施計画

■2020年度、「南砺市SDGs未来都市計画」のアクションプランとしての位置付けで「南砺市SDGs未来都市推進実施計画」を策定

■2024年度の「第2次南砺市総合計画 後期計画」策定時に合わせて、計画見直し予定



✓ 2022年度時点での取り組み状況について進捗確認を実施

南砺市SDGs未来都市計画の指標

評価検証対象：令和3年度終了時点での状況（資料2、3参照）

側面

2030年のあるべき姿

2021年度終了時の
指標等の状況・考察のまとめ

経済

全ての市民と応援市民が、意欲と能力に応じて、労働市場や社会活動で活躍できる環境を実現

- ・有機農業者数は増加（2018年15人 → 2021年24人）
→新規就農研修支援事業、就農マッチングツアー事業などによる就農者支援
- ・年間新規起業者数は停滞（2018年20人 → 2021年10人）しているが、ウィズコロナにおける新たな働き方などを検討する起業家の相談が増加傾向
→なんと未来創造塾開催事業、起業者育成支援事業による起業家育成・支援

社会

市民が、地域に誇りを感じ、心豊かで安心した暮らしを自分たちで実現

- ・SDGsそのものに関する普及は順調、地域のみならず小中高校の関心は高く、認知度も上がっている
（SDGsワークショップ開催地域数 2018年0地域 → 24地域、SDGs認知度89.1%）
→SDGs推進事業による普及啓発活動の実施
- ・小規模多機能自治による市民自らの課題解決に繋がる取り組みが活性化
（協働のまちづくりに取り組んでいる市民の割合 2018年42.4% → 2021年49.4%）
→住民自治組織強化事業、事業化促進事業などによる地域住民主体での取り組み促進

環境

市民と事業所が、豊富な自然資源を活用して、地球環境に負荷の少ない暮らしを実現

- ・豊富な森林資源を活用した循環モデルの構築を進めているが、指標は横ばい傾向
（木質ペレット利用量 2018年1,063t → 2021年1,015t
ペレットストーブ等年間設置補助件数 2018年15件 → 2021年12件）
→出前講座等の啓発により、地域内循環モデルを反映した新たなライフスタイルをより積極的に提案していき、ペレット等木質バイオマスエネルギーの利活用を推進する
- ・林業担い手は減少傾向（2018年165人 → 2021年140人）。
→森林・林業担い手育成事業（TOGA森の大学校）などにより、より課題に見合った講座内容を充実を図り、森林・林業の魅力を発信することにより、担い手の育成に繋げる

三側面をつなぐ統合的取組の動き

○南砺幸せ未来基金

- ・令和3年度10団体（頑張る人・地域応援事業：7件、休眠預金活用事業：3件）へ資金的支援を実施。支援の原資を市内外からの寄付金にて調達すると共に、休眠預金活用の資金分配団体となり地域外からの資金を地域内に投入。
- ・課題に向き合いながら地域資源を活用した助成事業を展開することによって、団体間のネットワークが形成されつつある。

○小規模多機能自治

- ・セミナーを通して、先進事例や成功例・失敗例などを学ぶ機会を創出。
- ・取り組みの基礎となる大変重要な方法である住民アンケートの実施について、各地区で研修会を行い、各協議会がアンケート実施に向けて動き始めている
- ・毎月の情報交換会や各地区取り組み発表会によって協議会同士が刺激し合える良い雰囲気づくりができています。

○人材育成（土徳文化）

- ・令和4年度、土徳文化を含めたSDGsに関する普及啓発活動として、出前講座（26回）、ブース出展（15回）、その他講演等（9回）を実施し、延べ3,000人以上にSDGsに関する啓発活動を実施。
- ・ふるさと教育として、各小中学校において、地域から市のよさを学ぶ新たな学習にも取り組み、南砺市の仕組みや特徴等について理解を深めている。学習の中で郷土のために出来る事を考え、市長への提言も実施。
(市長への提言実施校 R3：城端小学校、福野中学校 R4：福光東部小学校、平中学校)

SDGsの普及啓発に関すること

令和3・4年度の取り組み状況

出前講座、ブース出展等による啓発活動

- ・小中学校の授業や地域の集まりにおいてSDGsについて学ぶ出前講座を実施。また、地域のイベント等で体験型SDGsブースを出展。

令和3年度実績：出前講座39回、ブース出展8回、
その他講演等24回

令和4年度実績：出前講座26回、ブース出展15回、
(令和5年1月末時点) その他講演等9回



小学校でSDGsに関する講義



なんとSDGsボードゲームを活用した高齢者向け講座



SDGsカードゲームを活用した中学生への講座



ショッピングセンターでのブース出展

SDGsカフェの開催

- ・SDGsの各ゴールに関連する映画の上映会やワークショップを開催し、市民がSDGsについて学ぶための場を提供。

令和3年度 計8回実施

令和4年度 計5回実施予定（4回実施済み）



自然との共生をテーマにした映画上映会



藁草履づくり体験



農と消費と文化をテーマにした座談会

SDGsの普及啓発に関すること

令和3・4年度の取り組み状況

大学との連携

- ・富山県立大学と連携制作した“なんとSDGsボードゲーム”を活用した出前講座の実施



なんとSDGsボードゲーム



県立大生も参加して小学校でのワークショップを実施

- ・富山国際大学と連携し、学生がSDGsを学ぶためのフィールドワークを市内で実施し、課題解決につながる提案を実施



SDGs観点の課題解決提案に向けたフィールドワーク



南砺市で提案発表会を実施

となみ青年会議所との連携

- ・令和3年度
となみ青年会議所の設立50周年記念事業『新しい未来を楽しむフェス「ミラタス」』において、SDGsとゼロカーボンの推進につながる普及啓発活動を実施。



SDGsカードゲーム体験会



水素自動車「MIRAI」を展示

- ・令和4年度
市民が主体となるまちづくりの必要性について考えるイベントを開催



参加者全員でディスカッション



参加者の目指す未来を共有

SDGsの普及啓発に関すること

令和3・4年度の取り組み状況

なんとSDGsパートナー制度

- ・自分ごととしてSDGsのゴール達成につながる取り組みを市内で実施する企業、団体、または個人を「なんとSDGsパートナー」として認定
- ・令和3年7月から募集を開始し、現在は93団体登録（令和5年1月末時点）
＜内訳＞
企業57 各種団体等24 学校12
- ・認定されたパートナーは、取り組み内容などを南砺市ホームページで公表
→企業・団体のイメージ向上や新たなビジネスチャンスの創出、優良事例の横展開、実施している活動とSDGsが繋がっていることの「気づき」につなげる



なんとSDGsパートナー
専用ロゴマーク

- ・SDGsパートナーをはじめとした地域の企業・団体向けのSDGs推進セミナーを開催予定

地域でパートナーシップを活かすには？ 

なんとSDGs推進セミナー

「SDGsに取り組みたいけど何をすればよいか分からない」「一緒にSDGsに取り組み仲間やつながりをつくりたい」といった皆様の課題を解決します！

日時 2023年2月13日(月) 13:30~15:30
(13:00開場)

会場 南砺市クリエイタープラザ 1階 多目的ホール
(南砺市立野原東1514番地18)

形式 リアル会場とオンライン(Zoom)のハイブリッド開催
※オンライン参加は第1部のみ

定員 100名程度 (リアル会場) 参加費 無料

第1部 13:30~14:30	第2部 14:40~15:30
<p>■基調講演 「SDGs地域パートナーシップ の実際(仮)」</p> <p>講師 佐藤 真久氏 (東京都市大学大学院 環境情報学研究所 教授)</p> <p>■企業・団体の取組事例紹介</p>	<p>■参加者交流会</p> <p>参加者同士で気軽にお話する 場を設け、悩みや課題を共有 するとともに、今後の連携し た取組につなげます。</p>

SDGsの普及啓発に関すること

現状と今後の取り組み方針

【現状】

- ・SDGs認知度は89.1%（令和4年南砺市総合計画市民意識調査結果）となっており、市民のSDGsに関する「知る」「考える」は進んでいる。
- ・なんとSDGsパートナーは、令和5年1月末時点で93件の登録があり、個人、企業・団体のSDGsの視点での「行動」の広がりが見えてきている。

【今後の方針】

- ・引き続き、SDGsを自分ごととして考え行動へ移すための啓発活動を行うとともに、次のステップとして、「**行動を拡大し繋ぎ合わせる**」ため、パートナーの活動をより分かりやすく見える化し、取り組みや連携を促進して、地域課題を意識した行動変容につなげていく。

2020年～	2025年	～2030年
STEP 1		
【知る】 ・SDGsを理解し、地域の課題を知る。 ・「誰もが笑顔で暮らし続けられるまち」の姿を思い描ける。		【考える】 ・自分に何ができるかSDGsの視点で考える。 ・地域について語り合える「場」で、地域課題を共有する。
STEP 2		
【行動する】 市民、企業、各種団体、地域、行政のそれぞれができることから取組むことで、身近なところからSDGsの視点に立って行動する。		
STEP 3		
【行動を拡大し繋ぎ合わせる】 既存の事業を横断的に組み合わせたり、行政と市民、企業等が連携して取組んだりすることで相乗効果が生まれ、地域課題の同時解決を図る。		